

ふじのくに型福祉サービスとは

年齢や障害の有無に関わらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるような“垣根のない福祉”をコンセプトにした、静岡県が市町、団体、事業所等と協働で推進している福祉サービスの理念です。「居場所」、「ワンストップ相談」、「共生型福祉施設」の3本の柱から成っているのが特徴です。

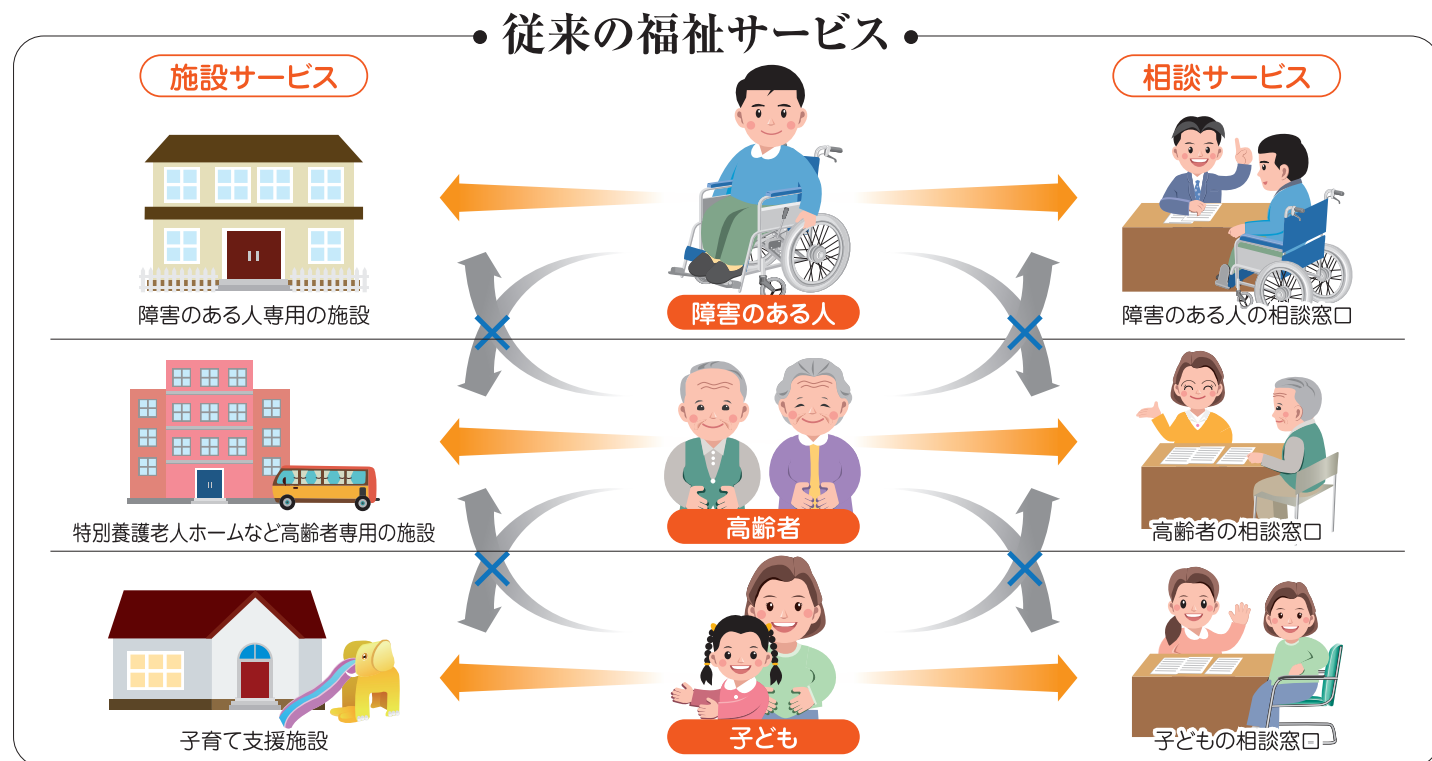


「ふじのくに型福祉サービス」の必要性

介護保険制度の定着に伴い、高齢者介護サービスの基盤整備は進んでいますが、一方で以下のような課題が生じています。

- 障害福祉サービスが身近にない。また、障害のある人が施設まで通うのが困難な場合がある。
- 家庭の中で、介護・福祉・医療・保健・子どもに関わる複合的な問題を抱えている場合がある。
- 核家族化に伴い、高齢者と子どもの交流や地域内での交流など、多世代の交流機会が減っている。

⇒このような諸課題を解決するために、静岡県では「ふじのくに型福祉サービス」の推進に取り組んでいます。



1 居場所

高齢者、障害のある人、
子どもの共生の場、
地域交流の場

効果
自発的に行動する住民が増え
地域活性化につながります。

安心
ひとり暮らしなどでも地域とのつながりが持てることで安心が生まれます。

相乗効果
年齢や障害の有無に関わらず、誰もが自由に立ち寄れる場でふれあいが生まれ、地域社会にプラスの影響をもたらします。

2 ワンストップ相談

身近にある地域包括支援センターで相談を受け付け、さまざまな施設や窓口と連携して対応

効果
身近な場所で問題を解決できます。

安心
困ったときにすぐに相談窓口が分かかります。

相乗効果
家族が抱える問題を一緒に解決するほか、必要なサービスを提供します。専門スタッフが家族の悩みを一緒に考え、解決方法を導き出します。各相談窓口が提供するサービス情報をまとめ、効果的に必要なサービスを提供しています。

3 共生型福祉施設

高齢者向けのデイサービスや特別養護老人ホームに、障害のある人の「通い」、「泊まり」や子どもの「子育て支援」受け入れ

効果
住み慣れた地域で安心してサービスを受けられます。

安心
地域にある高齢者用の施設を活用することで、障害のある人が慣れ親しんだ環境で生活できるほか、地域全体で子どもを見守ることができます。

相乗効果
一つの場所でお互いを知り、助け合うことができます。高齢者、障害のある人、子どもが一つの場所に集うことで、高齢者は活力を、障害のある人は自立心を、子どもは優しい心を育むことができます。

引きこもりの人への支援

孤立防止

商店街の活性化

安心・安全なまちづくり

健康寿命の延伸

子育て支援・学校支援

障害のある人の支援

介護予防・認知症予防